

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選

その59

文：佐藤 信光

山岳信仰の山「富祐山」 ふ ゆうさん

川谷の南方にある富祐山は信仰の山として村落内だけでなく他の地域からも多くの参拝者が訪れたといわれています。

山頂には廣瀬神社があります。修験道の廃止により「羽黒神社」から「廣瀬神社」に改称されましたが、現在でも地元の住民からは「羽黒神社」と呼ばれています。社殿は合掌殿造りと称すべき修験道独自のもので、内部は三神合祭となり、中央に羽黒大権現、左相殿に伊勢神明、右相殿には白山権現が祀られています。慶長11年(1606)に会津藩主蒲生秀行が参拝して、補修のために白銀3枚20石を献上され、「山間の霧はさながら海に似て波かと聞かば川の瀬の」と歌を詠みました。

神社東方の「白馬森」と呼ばれている場所に農耕や交通手段として生活と切り離せない馬の守護神としての馬頭観音を祀った3間四方の御堂がありました。15年ほど前に御堂は倒壊してしまいましたが、御尊体は保存されています。

麓には護摩を焚いて祈祷を行う4間四方の護摩堂があり、その中には「本尊大如来」「不動明王」「毘沙門天」(「弘法大師御作なり」と記されている)「文殊菩薩」(「恵心僧都御作なり」と記されている)などが祀られています。護摩堂脇に延命水という井戸があり、敷石とともにそのまま残されています。また神社参道の麓に「菊水井戸」があり、石宮に弁財天が祀られ、参拝する前に身を清めるためではないかと思われます。地元では「眼洗い井戸」とも呼ばれていました。

このほかに富祐山には、今も「稻荷大明神」(2尺×3尺の石宮)「大聖天宮」(石宮)などが祀られており、延享年間(1744～1748)に焼き討ちの焼失を免れた仏像展(大日如来ほか7点)も保管されています。このように富祐山は山岳信仰、修験道の心の形をまた、生活に身近な山として人々に信仰されてきたと考えられます。



廣瀬神社

今月の表紙

町では、1月12日より西会津町LINE公式アカウントの運用を開始しました。皆さんもお友だち登録をして、町からのお知らせをチェックしてみてください。

(2ページに関連記事)

編集後記

今月号でも取り上げたように、町ではLINEを活用した情報発信を新たにスタートしました。広報にしあいづも紙媒体だけでなく、LINEなどのデジタル技術を活用した発信を検討中です。

また、町では、公式SNSとして「Facebook」な
じよな町、西会津。」も平成30年から運用しています。こちらでは町からのお知らせだけでなく、イベントなどの様子も発信していますので、併せてご覧ください。
(秦)

